

オムロン株式会社 2014年度決算
投資家様向け説明会 質疑応答(サマリー)

(2015年4月27日、東京)

◆ 全社業績・経営・戦略関連

Q: 配当性向のコミットメントを1年前倒したことで、2016年度の配当性向の目標の変更や自社株買いの考え方に変化はあるのか？

A: 2016年度の配当性向の目標に変更はない。また、資金配分基本方針に変更はなく、優先順位は①成長投資、②配当、③自社株買いとしている。自社株買いについては、成長投資の案件などを見ながら実施可否を判断する。

Q: 2014年度の戦略投資の実績と、2015年度の計画は？

A: 2014年度は予定していた約120億円の戦略投資を、ほぼ全て実行した。2011年度から戦略投資を別枠にし、成長のための取り組みとして管理してきた。その取り組みが定着したため、2015年度から戦略投資として管理せず、社外にも開示しない。今後は研究開発費、設備投資により成長性を判断していただきたい。

Q: 上期、下期の計画を非開示にした理由は？

A: ショートターミズムへのアンチテーゼだと考えている。オムロンの事業は一部の事業を除いて季節性が少なく、また四半期毎の実績は従来通りの粒度で開示するため、通期の開示情報で外部が適正な評価を行うことは可能と考えている。

◆ 制御機器事業 (IAB) 関連

Q: 2015年度における営業利益の伸びが売上の伸びに対して低い理由は？

A: IABは成長と収益力のバランスを取りながら事業を運営しており、その結果、営業利益率がほぼ横ばいの計画になっている。研究開発費を増やしているため、後々の成長には効いてくる。

Q: 米州と中華圏の2015年度計画策定時の前提は？

A: 米州はオイル&ガス事業で昨年度の実績から80億円程度の売上ダウンを織り込んでいる。中華圏については、お客様のFA化のレベルが上がってきており、計画に拡大するFA需要の取り込みを織り込んでいる。

◆ 車載事業 (AEC) 関連

Q: 営業利益率が7%前後で推移しているが、今後の収益性の見方は？

A: 2015年度は昨年度に続き、お客様の端境期にあたり、収益性を大きく上げることは難しい。今は2019、2020年度モデルの開発を行っており、中期経営計画のその先を見据えた「種」を仕込んでいる。

◆ ヘルスケア事業 (HCB) 関連

Q: NS社の業績は順調に推移しているか？

A: 順調に推移している。NS社の業績寄与もあり、2015年度にHCBは10%以上の増収を計画している。

◆ その他事業関連

Q: 2014年度の下期に減速した理由と、2015年度の見方は？

A: 環境事業とバックライト事業の業績が大きく影響している。環境事業は市場環境の変化により下期に減速したものの、2015年度は新しい市場を開拓し、回復すると見ている。また、バックライト事業は客先の機種切替の端境期により、下期に減速したが、2015年度1Q後半からは需要の回復を想定している。
